

伝統を単に引き継ぐのではなく、新しいものをつくる。
そう思えたときに、プレッシャーが勇気になりました。

京都産業大学ラグビー部 監督

吉田 明さん



Profile

京都府出身。1994年、京都産業大学経済学部を卒業後、神戸製鋼に入社。中学生のころからラグビーを始め、啓光学園高校(現・常翔啓光学園高校)3年の時に全国高校大会で準優勝し、京産大では主将を務めた4年次に全国大学選手権でベスト4入りを果たす。大学4年次に日本代表に選ばれ、その後は代表チーム、神戸製鋼でCTBとして活躍。現役引退後の2006年春から母校のコーチを務め、今年1月にラグビー部監督に就任した。

ラグビー漬けの学生時代。 徹底的に精神面を鍛えられた。

学生時代はラグビー漬けの毎日で、厳しい練習のもと、技術面はもとより精神的な部分を叩き込まれたという吉田さん。「学生は学生らしく、一生懸命ひたむき」という大西先生の考えのもと、とにかくがむしゃらにラグビーに打ち込んでいました。練習中は私語もできないほどの緊張感がありましたね」と当時を振り返る。そんな厳しい練習の中から、なにより強さや勝負への執着心、さらには「これだけ練習したんだから負けられない」という思いが生まれ、精神的にも大きく成長できたという。

学生時代に日本代表に選ばれ、 ラグビーを続けることを決意。

大学卒業後はマスコミ業界への就職を考えていたが、4年次の春にラグビー日本代表に選ばれたことが転機となり、「卒業後もラグビーを続けよう」という気持ちになりました」と吉田さん。その後ラグビーの名門・神戸製鋼に入社し、初年度に全国社会人大会と日本選手権の7連覇に貢献。また、99年度からの2年連続の日本一を支えたほか、日本代表として、95年と、99年のワールドカップも経験した。「当時の神戸製鋼や全日本には、平尾誠二さんや大八木淳史さんをはじめ、すごいメンバーがそろっていました。技術面・フィジカル面ともに超一流で、その中でさまざまな刺激を受けましたし、そこで得たものは指導者となった今も大きな財産となっていますね」。



「リーグ戦は10月から始まり、主に宝ヶ池競技場で試合を行っています。ぜひ応援に来て、ラグビーの楽しさを感じてください」

コーチ業と並行して大学院へ。 チームマネジメントなどを学ぶ。

2007年に京都産業大学大学院マネジメント研究科に入学。コーチ業と並行して経営学とラグビーを比較しながら、チームマネジメントや組織編制のあり方についての研究を行った。「企業を復活させた人のステップと、実際のラグビーチームが低迷期から躍進していくこうとする過程を重ね合わせ、その成功要因について考察。仕事との両立は大変でしたが、得るものはたくさんありました」。昨季はリーグ戦最下位に終わり、まさに底辺からのスタートとなったラグビー部。その復活に向け、吉田さんのチームづくりの手腕に期待が高まる。「めざすのは、大西先生がつくられてきた伝統と僕が考えている新しい創造を融合した、固定観念にとらわれないチームづくり。伝統を単に受け継ぐのではなく、そこから新しいものをつくる。そう思えたときに、プレッシャーが勇気になりました」。



京産大、プチメッセージ

いろいろな場面で人の意見をしっかり聞き、考えて行動している自分に気づいたときですね。(外国語学部 2年次生 下竹 雅絵さん)

